

# しんあい

発行日：平成25年6月1日

●特別養護老人ホーム裕生園  
●ケアハウス シャトル  
●グループホーム たちはな  
●きんかん 小規模多機能ホーム  
〒880-2221  
宮崎県宮崎市高岡町内山 2407-3  
TEL.0985-82-0196(代)  
メールアドレス  
sin-ai-kai@sin-ai-kai.jp

発行：社会福祉法人 信愛会 ホームページ <http://www.sin-ai-kai.jp>

第  
26号



宮崎市浮田地区への移転改築工事が竣工した養護老人ホーム長寿園(平成25年3月)

しんあい



社会福祉法人信愛会  
副理事長  
辰元 圭子

新政権に変わり、安倍政権が打ち出した「アベノミクス」は、日本中いや世界中をまたたく間に駆け回り、日本や世界の経済を押し上げた感がします。株や為替に関係のない一般市民や企業は何の変化もないまま、消費税アップの不安や電気・ガソリンの値上げ等、毎日の生活に直接関係するわけで、円安や株高に喜んでばかりはられません。我々医療や介護事業など収入増は全く考えられず、いかに経費を節約していくにかかっています。

また、若い介護労働者が減り、野田政権の時の不景気から企業の業績の悪化で、リストラ等で他の職業から介護職へ転換をやむを得ずされた職員が、三々四年間の介護職の経験を終え、今年、介護福祉士国家試験に当法人から八人の合格者を出した事は大変うれしく思いました。これもピンチをチャンスに生かし、真面目に取り組まれた成果だと思えます。

昨年度は長寿園の移転改築があり、今年三月に完成しました。高岡町営時代から平成八年に委託を受けており、従来の二人居屋から全個室にする事と、定員五十人から七十人に増員になる事で、どうしても高岡町宮水流地区から移転せざるを得ませんでしたので、生目地区に移転しました。四月十八日に落成式を行いました。不思議な事に、三十六年前の裕生園の開設計と長寿園の落成式の日取りが同じ。施工業者が(株)戸田建設福岡支店というのも同じ。偶然にしては、神がかり的に一致している事にびっくりしました。

今後、旧長寿園の跡地計画を立てるに当たり、地域に密着した施設作りに努力したいと思います。



## 長寿園の移転改築工事が竣工

平成二十五年三月、社会福祉法人信愛会養護老人ホーム長寿園の宮崎市浮田地区への移転改築工事が竣工しました。長寿園は平成二十年四月に宮崎市から信愛会へ譲渡されましたが、その時の条件として平成二十四年度を目途に建て替えを行うことになっていました。それから約五年。土地の選定と入手、建物の設計、入札による施工業者の選定、行政とのやり取り、地域住民との話し合いなど、入念な準備を経て、このたび、鉄筋コンクリート二階建て、延床面積2683.56㎡、全室個室、定員七十名、ショートステイ2床の堅固な建物が宮崎市浮田の地、西田池の隣りに完成しました。

建築費用4億7200万円余り、宮崎市からの補助金2億3850万円、独立行政法人福祉医療機構からの借入金2億円。三月末に元の場所であった宮崎市高岡町宮水流から引っ越しを行い、新規の利用者も加わって、四月一日付で新しい土地での業務を開始しました。小規模多機能ホーム「きんかん」の背後に位置し、高岡地区と並んでこの浮田地区も信愛会にとって重要な活動拠点となって行くでしょう。



1階フロア



中庭



玄関



居室の様子



田んぼから見たところ。左手前がきんかん。中央向こうが長寿園。



## 長寿園移転改築落成式が行われる

平成二十五年四月十八日(木)、初夏を思わせる陽気の中、社会福祉法人信愛会養護老人ホーム長寿園の移転改築竣工の神事と落成祝賀会が竣工なった長寿園で行われました。

まず、竣工の神事が長寿園の二階ホールで、利用者が見守る中、厳かに行われました。平成二四年六月の着工以来、大きな事故もなくこうして竣工の日を迎えられた神助に感謝し、今後の関係者各位の一層の繁栄を祈願しました。

そして場所を一階ホールに移して落成祝賀会が開催されました。戸敷宮崎市長をはじめたくさんのご来賓の方々、工事関係者、地元生目地区の住民代表の方々、元の場所だった高岡町宮水流地区の住民代表の方々、信愛会の役員、そして辰元グループの主だった職員からなる総勢百余名の祝賀会となりました。

主催者あいさつでは、辰元信理事長が父親の故辰元忠前理事長の思い出を交えながら、地域の福祉と医療にかけるとの真摯な思いを力強く述べました。その後、関野園長による工事経過報告、工事関係者への感謝状贈呈と続き、戸敷宮崎市長その他のの方々による来賓あいさつがありました。乾杯のあと祝宴となり、余興では「まつぼっくり保育園」の園児たちが元気一杯の踊りを披露し、会場から拍手喝采を浴びていました。最後に、地元生目地区社協の日高会長の音頭で万歳三唱が行われ、長寿園落成祝賀会がお開きとなりました。

この落成式を通じて、私達信愛会が多くの人達によって支えられていることを再認識し、また、社会福祉法人としての使命を改めて確認しました。今後も様々な社会福祉事業を展開して、地域に信頼される施設・法人として地域に根付いて行けるよう尽力して参ります。



来賓あいさつをされる戸敷宮崎市長



辰元理事長による主催者あいさつ



長寿園2階フロアで行われた竣工の神事



拍手喝采を浴びたまつぼっくり保育園児による元気一杯の演技



1階フロアで行われた落成祝賀会



## 短歌会100回記念

毎月ケアハウスシャトルで開催されている短歌会が、平成二十四年五月にちょうど100回を迎えたのを記念して、これまでに発表された短歌の中から『しんあい』編集部が三十首を選びました。郷愁、喜び、悔恨、ユーモア、諦念……いずれも人生のベテランの域に達した方達だからこそ生まれて来た歌だと言えます。

山麓に虜囚のごとき耕運機

蕨に絡まれ一生終りぬ

秋山恵美子

かつさいもアンコールもなき一生なり

悔いなく過さむ介護の日々を

川島 俊彌

八十九歳はじめて知った短歌なり

心たのしく毎日ほげむ

岩切 志知

空の青山の紺さはかわらねど

日々うつり行く我身の愛し

串間 ミツ

同室の人が子を呼ぶ泣き声の

通せぬものか神や仙人

岩切 志知

年明けの初霜ふみて今日もまた

「リハ」に耐えおり大寒の朝

相良 富

紅のダリアの花は今朝見れば

ペシャンと首を下けたまま散る

白井トキ子

家出して尋ね来たりし教え子も

今は三鬼の母となりけり

下田 欣吾

帰り路娘の運転に安らぎぬ

霧島山に白雲流る

緒方 信子

蛇の目傘たたく雨音なつかしく

内なる人は美しからん

下田 欣吾

ピンク色の和洋菓子のような寒つばき

まことに寮母のやさしさに似る

緒方 信子

女房と鬼が仲良く居すわりて

亭主が逃げ出す節分の夜

下田 欣吾

玉碎を覚悟し死守せるニアス鳥

地震のニュース息詰めみつむ

川島 俊彌

一年生桜咲く頃喜んで

ランドセルをばせおって行くよ

二宮 裕子

## 伊藤一彦先生をお迎えしての 第100回短歌会



ケアハウスシャトルで行われた  
100回目の短歌会

平成二十四年五月十二日、毎月ケアハウスシャトルで行われている短歌会がちょうど100回目の記念すべき節目を迎えました。平成十五年十一月に第一回を開催して以来、ほぼ毎月開催し、8年7か月を経て100回に到達しました。ちょうど100回目のこの日は、立ち上げから関わっていらつしやる伊藤一彦先生も参加され、短歌を詠むことを通して、日本語の深く豊かな世界に触れる充実したひと時を、参加者みんなで共有しました。

伊藤一彦先生は、宮崎が生んだ歌人若山牧水研究の第一人者であり、ご自身も数多くの賞を受賞されている歌人でありつしやいます。また、宮崎県社協が主催して、今や全国規模の事業となった毎年恒例の「老いて歌おう」の選者も長年務めていらつしやいます。

その伊藤先生が短歌会に来て下さる日は、参加者も特別に力が入ります。伊藤先生は、参加者の詠んだ歌を決して頭から否定することなく、オリジナルな点、非凡な点を見つけて褒めて下さいます。そしてその上で、「ここはこうした方が更に良くなるよ」とアドバイスをして下さいます。

この日の短歌会で先生が一貫して唱えられたのは、「余韻」の大切さ、でした。「作り手が言ってしまったら、そこで終



この年になりて初めて思い知る

あの日あの時の母の痛みを

花田 暢子

耳に痛みともさらりと聞き流し

浮世渡るも年の功かな

花田 暢子

出しもせず来る苦もない手紙待ち

ホストのぞくが日課となりぬ

花田 暢子

今しばし百まで生きようと思いに

数えてみたらまたヒツクリ

福本 栄

車椅子乗るな歩けと云う人に

腹立て今は感謝してます

福本 栄

部屋替えになれば月影明るくて

夜明けと思ひ出て行きたり

福本 栄

馬車を曳く利口な馬の登り行く

私も力入れて見ており

松田 花寿

青空に負けじと山は連なりて

広く大きく心やすまる

松田 花寿

ありがとう命をかけて産んだ子に

今みまもられ涙する我

松本 マサ

夫去りもう十年は過ぎたるに

ぬくもりのある手枕恋し

松本 マサ

生き物の糧を産むのは土なのに

汚染されてはなす術のなし

松本 マサ

冷蔵庫ドアを開ければ物忘れ

元に戻つて思ひ出すなり

三浦 ハツエ

億単位の地球の命に比ぶれば

人生僅か楽しく生きたし

森田 琢恵

ペランブに樽一葉舞い来たり

「冬支度せよ」吾に告げんと

森田 琢恵

日々ともに空気のこくくなりゆかん

このままがいい二人の夕餉

森田 琢恵

夏祭り空をいろどる花火かな

我ひとすじに夜空を見上げる

米澤 義光



指導して下さいました伊藤一彦先生とお二人の先生方

わり。読者に想像する余地を残すからこそ味わいが出て来る」ということです。例えば、この日の参加者の短歌の中に「恵みの雨」という言葉が使われていました。私達なら見過ごしてしまう何でもない言葉ですが、伊藤先生からすると「これはテレビや新聞が使う報道の言葉。読んだ人が、ああ、この雨は何という恵みだろう」と思えるような表現をすることが大事」ということでした。

このようなやり取りで短歌会は進んでいきます。それは何か武道か芸事のお師匠がお弟子さん達に実地にその場で稽古をつけているような感じで、ごまかしの効かない真剣勝負をリアルタイムで見ているようです。短い時間でしたが、終了後、参加者の皆さんの顔はどなたも充実感いっぱい表情でした。次回、伊藤先生が来て下さるのを心待ちにして、また歌作りに精を出して行く毎日です。



最後にみんなで記念撮影。中央が伊藤先生



## 施設長就任挨拶



ケアハウスシャトル  
施設長  
中岩 哲也

この度、平成二十五年四月一日付でケアハウスシャトル施設長に就任いたしました。信愛会統括事務長在職中は数々のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

もとより微力ではございますが、小八重前施設長が築かれた特定施設としての基盤を揺るがすことのないよう、全力を尽くして職責を果たしていく覚悟でございますので、どうぞよろしくお願いたします。

私は、平成二十年三月から信愛会にお世話になり、シャトル、きんかん小規模多機能ホーム、そして信愛会統括事務長として勤務して参りました。それ以前は、他の法人で身体障害者施設、知的障害者施設、そして、高齢者施設等で福祉の仕事に携わって参りました。今年で三十年になりますが、そのうちの十六年間は事務長職に就いていました。多くの施設長のもとで、施設管理、労務管理などを勉強させていただきましたので、今、自分が施設長になり、これからはその経験を活かしていきたいと思っております。

ケアハウスは、在宅で生活するには不安のある方に住居、食事や入浴等のサービスを提供する施設ですので、高齢や病気などで介護が必要になった場合は、退居せざるを得ませんでした。しかし、平成二十二年一月よりシャトルは特定施設の指定を受けたため、介護が必要になっても居住が可能となりました。入所から年数がたつうちに、徐々に要介護状態になったり、病気で急に要介護状態になったりというケースがありますが、自立から要介護状態への身体的な変化を受け入れた上で、自立した生活が送れるよう支援していかねばなりません。シャトルには自立の方から要介護4までの方が生活しており、その多様化したニーズに応えるためには、職員ひとりひとりが日々の研鑽に努めるとともに、ご入居者の生活の質の向上を図っていききたいと思います。

これからも、ご利用者の皆様が安全、安心な生活を送ることが出来るよう、職員一丸となって支援していくと同時に、施設長として、より良い施設作りを心がけていきたいと思っております。



アンパンをゲットです！



ハチマキしめて大運動会！



高岡町内の月知梅公園にて



## 裕生園 明るく楽しい園生活



今日はまこころ食堂で外食です



歓声と拍手が起こりました



子供達に人気のヨーヨーコーナー



まさに昔取った杵柄！



# グループホーム たちばな



みんなで一緒に制作した花菖蒲の貼り絵です。一つ一つ丁寧に花紙を丸めて貼り付けて下さいました。



昨年の10月に百歳になられた岩田ミサさん。いつも笑顔で元気一杯です。



みんなで協力して作り上げた作品の前で。ホームには四季折々の作品が飾られています。

正月三日、町内の神社へ初詣で。笑顔でのんびりと生活できるようお祈りしました。



クリスマスツリーを囲んで。



ミニドライブで馬事公苑へ。天気もよく、花もとてもきれいでした。

お正月に玄関前で。今年も皆さんにとって良い年でありますように。

# きんかん 小規模多機能ホーム



きんかんのアイドル犬はなちゃんです。



月に2回程、職員が愛情を込めてタクティールケアをさせて頂いてマス。



母の日に感謝の気持ちを込めて職員手作りのカーネーションをプレゼントしました。



きんかんの隣の西田池で、ご家族や地域の方々とお花見を行いました。



天ヶ城へドライブに行きました。桜のじゅうたんがとてもキレイでした。



消防署や消防団、地域の方々に協力して頂き、総合防災訓練を行いました。



## 『いあいさつ』



裕生園 事務長  
柏田沙代

この度、平成二十五年四月一日付で裕生園の事務長に就任いたしました。

私は十五年前の平成十年に裕生園に入職し、洗濯場（パート）、裕生園介護職、その後ケアハウスへ異動となり、介護職、事務員を経て、平成一四年四月より裕生園の事務員、事務主任と勤務して参りました。十五年前、民間企業で事務職に就いていた時、仕事に疲れ果て、この裕生園の洗濯場に飛び込んだ事を思い出し懐古しております。

当時、就職の事でご相談した方から、「作業労働というのはあなたには無理ではないかな。ある企業の経理を紹介しますよ」というアドバイスを断り、作業労働のパート求人希望しました。ところが、この作業労働を経験したおかげで、私の精神的疲労はすっきりみずみずしく蘇えり、知人にはいきいきしていると言われる程になりました。もちろん、私自身が潤いを感じ新しい気持ちになる事が出来た事は確かでした。ほんの僅かな期間で介護職へ異動となりましたが、この時の自分の判断は間違っていないのだと思います。介護職に異動になった時も、年下の若い介護職員の方やはたまた年上の先輩方が、厳しく、やさしく、丁寧に指導をして頂いたおかげで今日の私があるのだと思います。

「事務長就任おめでとうございます」の言葉に、若干過去に経験しているばかりに不安が募ります。責任という二文字がついてまわり、更なる重責を負う事に、気持ちが潰れない様に、また一から謙虚に、目の前の仕事に向き合う事を覚悟を決めて職責を果たしていく所存でございます。介護職の不足、人材育成とたくさんのお力を添えを頂きながら、もとより微力ではありますが、感謝の心で、謙虚に頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

## 『新たな挑戦』



裕生園 生活相談員  
清水麻衣

裕生園に入職して六年が経ちました。介護職員を五年間経験し、昨年の四月より生活相談員として勤務しています。

入職したばかりの頃は毎日の業務に追われ、一日があつと言う間に終わっていました。業務内容を覚える為、腰痛にも悩まされながら、ただ黙々と仕事していた日々を今でも思い出すことがあります。そんな中でも、職員と一緒に必死になって課題にぶつかったり、色んな事に挑戦したり、また声を出しながら笑い合う事も数多くありました。これも良い先輩、後輩に恵まれたから経験できた事であり、私自身の成長にも繋がったのだと思います。

入職して六年目に入ろうとした時、生活相談員のお話を頂きました。「私はずっと介護の現場で」と考えていたので、驚きと共に不安や責任感で押しつぶされそうになりました。ですが、五年間介護職員として仕事をしていく中で、「介護職」だけでは利用者の方により良い生活を送って頂くことは困難であり、看護・栄養士といった他職種やご家族との連携が何よりも大切であることを実感しました。私は各職種について十分に理解しているわけではありません。けれどもご家族や他職種同士を繋げるパイプ役になり、一緒になって利用者の方に笑顔あふれる毎日を提供する事が出来るのであれば、未熟者ではありますが、これまでとは違う形で支援させて頂いています。

生活相談員として一からのスタートとなり、勉強することが山ほどありますが、入職したての頃と同じように全力で努めていきたいと思えます。今後ともよろしくお願ひします。

## 編集後記

「事実は小説よりも奇なり」

辰元副理事長が表紙の「いあいさつ」で触れていますが、長寿園の移転改築落成式では、本当にびっくりするような不思議な一致がありました。落成式の日取りを4月18日に定めて準備に大わらわだったある日、私達はその日が36年前の特養裕生園の開設日だったことに気づきました。しかも同じ大安吉日。しかも同じ巳年。しかも施工業者は裕生園の時と同じく戸田建設さん。こんな事があるのでしょうか？そして副理事長は36年前は36才だったのです。そして巳年生まれ。あまりにたくさんの方が一致するので怖いくらいでした。ところで、この不思議な一致に気づく3日前に、職員の方が「ケアハウスにへびが3匹出た」と言っていたのを思い出しました。「蛇足」ですが、本当です。